

「六呂師高原活性化構想（案）」パブリックコメント意見まとめ

第3章 基本方針の設定

No	意見概要	県・大野市の考え方
1	福井県唯一の高原であり、SDGsの観点からも持続可能な計画にすることを念頭に置かなければいけない。	本構想の基本方針において、今後の再整備にあたっては、「SDGsへの対応や持続可能性に配慮した整備内容を検討」することとしており、固有の高原景観や自然環境の保全、環境負荷などにも考慮した整備を推進します。
2	六呂師高原は、「春・夏・秋・冬」を楽しみ、学び、交流する場所である。これまでのファンを大切にしつつ、地元の人にも活躍の場ができ、途中で修正もし、徐々に盛り上がっていったら良い。時間がかかっても地域の思いをもっと盛り上げてほしい。	これまでも地元関係者と連携し、「アルプス音楽祭」や「さかだに雪まつり」などの誘客事業を実施してきました。今後も、地元関係者との連携や地域への経済効果の波及を検討するとともに、近隣住民の方々も含め様々な世代の来訪者が楽しめる環境整備を検討していきます。
3	まずは、ハードよりソフトの充実を優先する。環境教育の視点を軸とし、心から満足してもらえるようなソフトづくりが大切ではないか。	約2年後の北陸新幹線福井・敦賀開業を見据え、ハード事業だけではなく、星空保護区の認定促進や牧場体験・自然散策メニューの造成、アウトドアガイドの育成など、ソフト事業も含めたアウトドア・アクティビティの受入環境整備を検討していきます。

第4章 具体的な取組み施策

No	意見概要	県・大野市の考え方
4	スキー場の再建（日本のどこにもないロケーション）。冬季は、スノーシュー、エアボード、雪板、クロスカントリー、スキー、ソリ、雪あそび、雪と触れ合う楽しいプログラムは人気が高く需要が高い。	国内のスキー・スノーボード人口の減少や、近年の小雪・豪雪といった極端な気象環境により、全国的にスキー場の運営は難しい状況です。六呂師高原スキーパークにおいては、上記の市場環境に加え、標高が低く南向きの斜面であるため雪質が劣化しやすく、冬期間に十分な運営日数の確保が困難な状況でした。このため、今後はスキー場の運営を中心とした誘客から転換し、冬期間は、スノーシューやエアボードなど、スキー以外の手段で雪を楽しむアクティビティの充実・展開を検討していきます。
5	斜面を活用したエアボードなどとあるが、親子をターゲットとした旧六呂師高原スキー場よりやや規模が小さいゲレンデと椅子のあるリフト1基を整備し、宿泊にユニットキャンプサイトを利用してもらうなどすると利用者は増えるのではと思う。前回のスキーパークは椅子がないロープ・トウもしくはハンドル・トウ（Tバーリフト）であったため、初心者には乗りづらいリフトだった。	
6	グリーンシーズンに森林での様々な体験活動を実施し、一般やこども園、学校、各種団体の方々があるままの自然の中で楽しく活動されている。六呂師高原の広々とした環境の中で行っているサイクリングやツリークライミングなどは昨年の修学旅行の中高生にも人気であった。	オートキャンプ場など新たな施設の整備検討に加え、アウトドア・アクティビティの充実も図るとともに、近隣県と連携した教育旅行の誘致・県外への情報発信などを強化していきます。

No	意見概要	県・大野市の考え方
7	トロン温泉の復活を検討してはどうか。	トロン温浴施設うらら館については、脱炭素に向けた木質バイオマスボイラーの導入や景観と調和した施設外観への改修などを検討し、今後も運営を継続していきます。
8	公共施設を含めた既存施設の機能・運営・連携方法などを検討してはどうか。	既存の各施設は、高原内に点在しており、滞在時間の延長や消費額の拡大を図るためには、施設同士の連携やサイクリングなどの新たな移動手段の提供等、来訪者の周遊性を高める仕掛けが必要です。今後のアクティビティの造成にあたっては、各施設が連携した新たな体験プログラムなども検討していきます。
9	屋外でアウトドアを楽しむためには、アウトドアを体験した後に飲食も含めて休憩できる場所が必要になると思う。そのような場所も整備してほしい。	現在のミルク工房奥越前をオートキャンプ場の管理棟およびレストランに改修することを検討しています。本施設の改修にあたっては、店内飲食に加え、テイクアウト商品も充実させることで、高原景観を望みながら飲食を楽しめる内容とするほか、アウトドアを楽しんだ方の休憩スポットとしての活用も想定しています。
10	六呂師高原の特徴や恐竜博物館からも近い立地を考えると、六呂師高原のメインの客層は子供を含めたファミリー層であると思う。今後の再整備内容を検討するにあたっては、ファミリーが遊べるエリアやアクティビティの充実を図ることが必要だと思う。	オートキャンプ場の整備・運営にあたっては、ファミリーでも使いやすいように、トイレ・シャワー・用品などを収納した「ユニットキャンプサイト」の整備を検討するほか、高原内に現存する巨岩（伏石）を活用し、子供から大人まで遊べるフィールドアスレチックの整備を検討します。また、星空観察や牧場体験、マウンテンバイク、スノーシューなどのアクティビティの充実も図り、子供連れのファミリーでも楽しめる環境整備を検討していきます。
11	キャンプサイト、コテージについて、ペット共生が可能なエリアを設けてほしい。併せて、ドッグランを設置（日帰り利用可）してほしい。	オートキャンプ場の具体的な整備内容や施設の配置場所などは、今後の本施設の整備・運営スキームの協議とあわせ、検討していきます。
12	施設の予約（空き状況確認含む）をインターネットでできるようにしてほしい。	六呂師高原全体の再整備にあわせ、観光客が利用しやすい施設の運営内容も検討していきます。
13	マウンテンバイクのダウンヒルやボルダリングなどNEWスポーツはオリンピックの競技にもなっているので今後集客が見込めると思う。マナーが悪い客が来るのはいけないので敷居が高めの施設にすると良い。道の駅のボルダリングタワーも解放しているか分からない時がある。開いている事が分かるようにしたら、施設の集客のきっかけになると思う。	固有の自然資源を活用したアクティビティの充実に加え、アウトドアガイドの育成を通じた利用者の安全確保や利用者へのマナー指導など、受入環境の整備も検討します。また、施設の運営にあたっては、運営状況の分かりやすい案内や情報発信の方法などについても検討していきます。

No	意見概要	県・大野市の考え方
14	<p>自然保護センターで行っている「野鳥のレストラン」や「星空観察会」は人気であり、子供から大人まで来場している。福井の貴重な自然環境を発信する拠点として、古くなった自然保護センターの展示内容のリニューアルや施設の魅力向上を図る取り組みはとても良いと思う。福井ならではの自然資源を発信する拠点として自然保護センターをもっと活用してほしい。</p>	<p>自然保護センターについては、六呂師高原の自然資源を親子が楽しみながら「体感」できるように、展示内容や星空観察棟などの改修を検討します。六呂師高原は、本県唯一の県立自然公園である奥越高原県立自然公園内に位置していることから、日本一綺麗な星空や高原景観などの固有の自然資源を活用し、様々なアウトドア・アクティビティが集積する拠点となることを目指します。</p>
15	<p>六呂師高原は自然公園にも指定されており、自然歩きができる散策路や森が整備されている。県全体を見ても、越前海岸沿いに散策路が整備されているが、緑に囲まれた自然の中で散策を楽しめる環境が整っている場所は、少ないと思う。六呂師高原では、自然散策の環境を整えるためのトイレや舗装道、散策路の案内看板などがすでに設置されているため、これらの環境をさらに整備し活用することが重要だと思う。</p>	<p>固有の高原景観や自然環境の保全、環境負荷などにも考慮した整備を推進します。そのうえで、高原内の自然散策環境の整備については、案内看板の再配置、老朽化した建物・ベンチの撤去などを検討し、季節ごとに変化する自然資源を来訪者が楽しみながら散策できる環境を目指します。また、星空保護区認定に向けた取り組みやアウトドアガイドの育成、散策ルート造成など、固有の自然資源を楽しめる受入環境の整備を検討していきます。なお、池ヶ原湿原については、池ヶ原湿原保全活用協議会において、ヨシの刈り取りなど植生遷移の抑制、地下水位の維持、外来種の防除に努めます。</p>
16	<p>妻平湿原への誘客のアプローチは容易であり、近隣の施設との調和を第一とし、六呂師高原での自然への誘いの核になるように、工夫を凝らしてほしい。そこで、かつてのスキー場駐車場を小山に造成し、緩やかなスロープの間を通り抜け湿原に向かう構想はどうか。</p>	
17	<p>池ヶ原湿原は県の事業により維持管理がなされているが、いくつかの課題がある。一つは、湿原の植生環境の保全管理である。本湿原固有の貴重種が生育しているが、かつての再生作業時の植生状態には至らず、原因の究明と対策が急がれる。次に、ハンノキの繁茂対策やオオハンゴンソウの除去作業がある。湿原という脆弱な環境を守るための方策をたて、地道な努力を続けなければならない。湿原への来訪者を受け入れる方策も大事で、既存の木道の整備は喫緊の課題である。湿原としての規模は小さいが、存在意義の極めて大きなことを再認識したい。</p>	
18	<p>持続可能とするため、単なる受益者負担にとどまらず、「環境保全協力税」のようなものを新たに設置し、維持を可能とするようにしてほしい。</p>	<p>固有の自然資源の保全や自然再生などを推進する具体的なスキームは、専門家や地域の関係者などとも連携し、今後検討していきます。</p>
19	<p>六呂師高原のまわりには、新しくできた道の駅越前おおの荒島の郷があるほか、恐竜博物館からも近いので、六呂師高原だけではなく、その周りの施設も含めて遊べたり楽しめる場所にしていくといい。</p>	<p>今後の活性化策の実施にあたっては、道の駅越前おおの荒島の郷の物販や大野市のまちなか周遊によるグルメ体験、スターランドさかだにでのそば打ち体験などとの連携を検討するほか、恐竜博物館に来場するファミリーも楽しめるアクティビティを造成するなど、誘客力のある近隣施設とも連携した取り組みを検討します。また、ジャパンエコトラックを活用したサイクリングルートの整備なども検討することで、周辺エリアも含めた広域的な観光ルートの造成を推進していきます。</p>
20	<p>大野市側からのアクセスは、まだ分かりやすいが、勝山市側からの道がとても分かりにくい。平泉寺や恐竜博物館ともつないだエリアアクセスを考えてほしい。</p>	

No	意見概要	県・大野市の考え方
21	SEA TO SUMMITのルート案でカヤックの発着を野尻公園と設定しているが、公園から湖面まで距離があり、公園から湖面まで上り下りする階段及び湖面に栈橋が必要になってくるのではと思う。当該区域は河川区域であり、国交省の許可を得て公園として利用していると聞いている。当該サミットを行う際は早めに国交省など関係機関と連携し、必要な設備などを整備する必要があると考える。	六呂師高原は、令和3年4月に登録された「ジャパンエコトラック九頭竜川・荒島岳」のルートに位置づけられており、奥越エリアの自然資源を活用したアウトドアイベントの開催も検討します。今後、本事業を実施する際には、国や関係機関などと十分に連携・調整を図りながら内容を検討していきます。
22	ふるさと納税の返礼として、六呂師高原関連の利用を盛り込むなどしてほしい。	大野市では、地域の事業者と連携し、市の魅力発信につながる商品やサービスをふるさと納税の返礼品として活用しており、六呂師高原関連の返礼品の造成についても、今後検討していきます。
23	地元の若い子たちが行き来できる映画館や娯楽施設が欲しい。	六呂師高原は、スイスのアルプスを想起させる高原景観や日本一綺麗な星空など、固有の自然資源と、それらを楽しむアウトドアの拠点としての機能が最大の特徴です。今後は、これらの特徴を最大限活かし、「アウトドアを軸とした誰もが自然を楽しめる山岳高原エリア」をコンセプトに、活性化策を検討していきます。

その他

No	意見概要	県・大野市の考え方
24	この計画立案には、勝山市が参画しないのはなぜか。	六呂師高原の地係は、奥越高原牧場周辺などが一部勝山市に入るものの、大部分が大野市であり、これまでの施策も主に県・大野市が連携し行ってきたことから、本構想の策定は県・大野市が主体となり実施します。なお、今後の具体的な施策を行う際には、勝山市や関係市町などとも十分に連携を図りながら事業を実施していきます。